2027 年度 早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
研究指導内容・コード一覧

以下は **2026 年 11 月 17 日時点**の情報です。公開後の変更は**赤字**で記載します。
今後内容が変更になる可能性もありますのでご注意ください。

<注意事項>

①入学後の研究内容や研究環境などのミスマッチを防ぐために、出願前に希望する研究指導の担当教員とコンタクトをとり、研究内容に加え研究環境や入学後の具体的な研究活動の進め方（研究活動に要する時間や求められる研究成果など）について十分に相談し確認するようにしてください。
指導教員および研究環境は、在学期間を通じて研究活動の基盤となるため、出願前にこれらの点を慎重にご確認ください。実際の研究環境を確認するため、出願前にキャンパスや研究を実施する環境の現地見学を推奨します。

※海外出張等で教員とすぐに連絡がつかない、または返信が遅れる場合もありますので、早い段階から教員との相談・確認を行ってください。

担当教員へは、以下の事項を直接メールにて送付してください。

（注意）
修士課程・博士課程の事前コンタクト以外の問い合わせは一切対応しません。入試制度など、入試に関する問合せは 以下のフォームからお問合せください。
お問合せフォーム（人間科学学術院・スポーツ科学学術院共通）

●送信先メールアドレス：
6 ページ以降の「研究指導内容一覧」内に掲載されている各教員のメールアドレス宛に直接ご連絡ください。
また、早稲田大学研究者データベース（https://w-rdb.waseda.jp/search?m=home&l=ja）や研究室 HP を検索し、各教員宛に直接ご連絡ください。
●タイトル：大学院スポーツ科学研究科 事前コンタクトについて（ご自身のお名前）
●本文に記入する事項：
1) 指導を希望する教員名
2) 希望する課程(修士課程 2 年制・博士後期課程・修士課程 1 年制)
3) 希望する入試形態(一般入試・推薦入試・社会人入試など)
4) 氏名・カナ氏名(在学生の場合は学籍番号も記載)
5) 自身の連絡先(携帯電話番号、メールアドレス等)
6) 教員へ送付したい内容(教員への質問や相談などを詳細に明記すること)

※上記を調べても教員の連絡先が不明な場合、上記お問合せフォームへ事前コンタクトの内容をお送りください。事務所から、当該教員宛に転送します。

②研究指導コードは次ページ以降を参照のうえ、間違いのないよう志願票にご入力ください。

2027 年度 大学院スポーツ科学研究科 研究指導コード一覧

●修士課程２年制・博士後期課程

研究領域	研究指導コード【修士２年制】	研究指導コード【博士後期】	研究指導名	資格	担当教員名
スポーツ文化	A28	–	スポーツ史	教授	石井　昌幸
	A30	–	舞踊論	教授	杉山　千鶴
	A32	–	体育科教育学	准教授	吉永　武史
	A35	M35	スポーツ教育学	教授	深見　英一郎
	A38	M20	スポーツ社会学	教授	中澤　篤史
	A40	M25	スポーツ文化論	教授	川島　浩平
	A42	M45	アジアのスポーツと身体文化	教授	高嶋　航
	A44	M50	スポーツ国際開発学	教授	岡田　千あき
	A46	–	スポーツ哲学	教授	佐々木　究
スポーツビジネス	B20	N20	トップスポーツビジネス論	教授	平田　竹男
	B22	N30	スポーツ組織論	教授	作野　誠一
	B26	N26	スポーツビジネスマーケティング	教授	松岡　宏高
	B28	–	スポーツビジネス法	教授	松本　泰介
	B30	N36	スポーツ＆エンターテイメントマネジメント	教授	佐藤　晋太郎
	B32	N40	スポーツプロモーション論	教授	髙橋　義雄
	B34	–	スポーツ経営戦略	准教授	大井　義洋

研究領域	研究指導コード【修士２年制】	研究指導コード【博士後期】	研究指導名	資格	担当教員名
スポーツ医科学	C32	P32	健康行動科学	教授	岡　浩一朗
	C34	P34	スポーツ整形外科学	教授	金岡　恒治
	C36	P36	予防医学	教授	鈴木　克彦
	C38	P38	アスレティックトレーニング	教授	広瀬　統一
	C40	P42	筋生物学	教授	秋本　崇之
	C42	P44	運動代謝学	教授	宮下　政司
	C46	P46	運動器スポーツ機能解剖学	教授	熊井　司
	C48	P50	健康教育学	教授	石井　香織
	C50	P54	スポーツ神経精神医科学	教授	西多　昌規
	C52	P48	スポーツ疫学	教授	澤田　亨
	C56	P60	アスレティックパフォーマンス	准教授	平山　邦明
	C58	P66	環境運動生理学	准教授	細川　由梨
	C60	P68	スポーツ生化学・遺伝学	准教授	谷澤　薫平
	C62	P56	スポーツ生理学	教授	前田　清司
	C64	P58	応用生理学	教授	宮地　元彦
	C68	P70	ハイパフォーマンス科学	教授	宮本　直和
	C70	–	パラスポーツ科学	准教授	前田　慶明
身体運動科学	D05	Q05	生体ダイナミクス	教授	川上　泰雄
	D30	Q30	スポーツ心理学	教授	正木　宏明
	D38	Q38	統合運動神経生理学	教授	宝田　雄大
	D42	Q42	バイオメカニクス	教授	矢内　利政
	D45	Q45	スポーツ栄養学	教授	田口　素子
	D50	Q48	運動生理学	教授	林　直亨

研究領域	研究指導コード 【修士２年制】	研究指導コード 【博士後期】	研究指導名	資格	担当教員名
コーチング科学	E00	–	走運動・コーチング科学	教授	礒　繁雄
	E05	–	トップスポーツコーチング科学	教授	奥野　景介
	E10	R10	スポーツコーチング学	教授	土屋　純
	E15	R25	コーチングとこころの科学	教授	堀野　博幸
	E20	R20	トレーニング科学	教授	岡田　純一
	E25	R35	チームスポーツコーチング論	教授	松井　泰二
	E28	R30	武道のコーチング学	教授	射手矢　岬
	E30	R40	冬季スポーツコーチング学	准教授	藤田　善也
	E32	—	ハイパフォーマンス＆コーチング	講師	欠畑　岳

●修士課程１年制

コース	研究指導コード【修士１年制】	研究指導名	資格	担当教員名
トップスポーツマネジメント	F00	トップスポーツマネジメント	教授	平田　竹男
スポーツクラブマネジメント	G01	スポーツプロモーションマネジメント	教授	髙橋　義雄
健康スポーツマネジメント	H00	健康スポーツマネジメント	教授	中村　好男
介護予防マネジメント	J00	介護予防マネジメント	教授	岡　浩一朗
エリートコーチング	L50	エリートコーチング	教授	土屋　純（主担当）
			教授	礒　繁雄
			教授	奥野　景介
			教授	堀野　博幸
			教授	岡田　純一
			教授	松井　泰二
			教授	射手矢　岬
			准教授	藤田　善也
スポーツジャーナリズム	I00	スポーツジャーナリズム	―	未定

2027 年度 大学院スポーツ科学研究科 研究指導内容

修士課程２年制 ・ 博士後期課程

１．スポーツ文化 研究領域

研究指導名	スポーツ史	**教授**	**石井　昌幸**
専門・専攻分野	スポーツ史・国際スポーツ文化論	学位	
研究指導	修士課程		
指導内容	スポーツおよび身体に関わる歴史研究の方法を指導する。現在、指導教員は、近代欧米社会を中心に、工業化社会・市民社会におけるスポーツ文化の形成過程を主たる研究テーマとしているが、そのほかに、プロスポーツ、スポーツ産業の成立過程、日本における近代スポーツの受容過程、世界各地へのスポーツ伝播のプロセスなど、さまざまな文化史研究への展開を考えている。また、近代国民国家における国民統合とスポーツの関係や、近代スポーツを通じての文化変容、身体観の変容といった比較的新しい歴史学のトピックも扱いたい。		
Keywords	スポーツとイギリス近代、伝播、変容、土着化、国民国家、帝国		
Web page			
E-mail	m-ishii■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	舞踊論	**教授**	**杉山　千鶴**
専門・専攻分野	舞踊学、モダンダンス	学位	
研究指導	修士課程		
指導内容	本研究指導では、特定のジャンル・地域・時期に限定しない。広く舞踊の各ジャンルならびにこれに類する芸術スポーツとされるものにまつわる諸問題に関し、記され残された文献・資料、実践を通して研究を進める。また舞踊と深い関連を有する軽演劇や音楽（オペラ）も視野に入れる。例えば日本のモダンダンスの草創のキャリアのスタートがオペラ歌手であったこと、その前史が 1920 年代の軽演劇（浅草オペラ、浅草レヴュー）に認められるように、これらの領域は舞踊史を考える際に不可欠である。多様なアプローチを試みたい。		
Keywords	舞踊、芸術スポーツ、軽演劇、振付・動作、技法		
Web page			
E-mail	c-sugiyama■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	体育科教育学	**准教授**	**吉永　武史**
専門・専攻分野	体育科教育学	学位	
研究指導	修士課程		
指導内容	体育科教育学は、学校の体育授業を中心とする体育実践の改善を目的として行われる研究分野である。研究指導では、従前の体育科教育学の研究成果を踏まえて、カリキュラム論と学習指導論の両面から体育授業研究にアプローチし、優れた体育授業を実践していくための方策について検討する。具体的には、体育授業の目的・目標論、学習内容論、内容編成論、教材づくり論、指導方法論など、それぞれ理論的・実証的方法で研究を進めていく。加えて、球技の指導モデルとして注目されている戦術学習論や、高度な実践的力量を備えた体育教師の養成に向けた教師教育論についても指導する。		
Keywords	カリキュラム、学習指導、教材開発、パフォーマンス評価、戦術学習、教師教育論		
Web page			
E-mail	t-yoshinaga■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ教育学	**教授**	**深見　英一郎**
専門・専攻分野	スポーツ教育学	学位	博士（体育科学）筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ教育学は、スポーツを通じて心身の成長、人間形成、社会性の育成を目指す学問で、単なる技術指導だけでなく、スポーツの持つ教育的価値を科学的・体系的に研究し、教育現場や生涯スポーツに活かすことを目的としている。研究指導では、体育・スポーツの教育的意義を理論と実践の両面から探究する。先行研究の精読と批判的検討を基盤に、質的・量的研究法を用いた調査設計、データ分析、研究倫理を体系的に指導する。学校体育・スポーツや地域スポーツ活動の実践分析、教材・指導法の開発を通して、課題解決力と学術的表現力を養い、修士・博士論文の完成を目指す。		
Keywords	教授技術、体育授業、学校・地域クラブ活動、指導者、指導方法		
Web page			
E-mail	eiichiro■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ社会学	**教授**	**中澤　篤史**
専門・専攻分野	スポーツ社会学	学位	博士（教育学、東京大学）
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ・身体・人間に関連する社会現象を、社会学を中心とした社会科学的アプローチから探究する研究を指導する。 私自身は、ユーススポーツや運動部活動、身体の教育などについて研究しているが、大学院生諸君の研究テーマや分析対象は幅広く多様であって構わない。「権力」「ジェンダー」「セクシャリティ」「障害」「逸脱」「暴力」「格差」「差別」「組織」「ナショナリズム」「民主主義」「資本主義」「近代化」「グローバリゼーション」etc。各自の問題関心を大切にした、オリジナリティあふれる研究を支援する。 指導方針として、①魅力的な「問い」が立てられるようになること、②方法論や分析枠組みを適切に設定できるようになること、③データや根拠を十分に集められるようになることを重視する。合わせて、フィールドワーク、史資料の蒐集、質問票調査および統計的分析などの調査方法についても指導する。 授業では、毎回のゼミにテキストを読んで参加し積極的にディスカッションすること、文献レジュメ発表／個人研究発表／レビュー発表／データ分析発表を行うこと、そして読書課題に取り組むことを求める。スポーツ社会学の専門的文献以外に、人文社会科学の幅広い素養を身に付けてもらうため多くの文献講読を課すので、日本語および英語のハイレベルな語学力が必須となる。 以上を通じて、高度人材として活躍できる社会人育成およびアカデミズムの発展に貢献できる研究者育成をめざす。		
Keywords	社会、ユーススポーツ、運動部活動、身体の教育		
Web page			
E-mail	nakazawa.atsushi■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ文化論	**教授**	**川島　浩平**
専門・専攻分野	スポーツ文化論／スポーツ史	学位	Ph.D. （米国ブラウン大学歴史学）
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ史学、スポーツ人類学の方法論を用いて、アメリカ合衆国および日本におけるスポーツの歴史と現在を研究領域とする。より具体的には、両国における階級的な対立や人種差別、性差別の歴史を視野に入れながら、各時代においてスポーツが、市民・国民間のこうした格差や差異による軋轢や摩擦といかに連動し、これを強化・補強し、あるいはこれを調停または軽減したかについて実証的に考察する。また、野球、アメリカンフットボール、バスケットボール、バレーボールなどのアメリカ起源のスポーツが近代日本へいかに伝播し、発展して現在に至っているかを上述の方法論・視座・視点から捉え、その歴史と現在を検証する。これらの領域や問題意識と関心を共有する研究プロジェクトに対して、研究指導をおこなう。		
Keywords	アメリカ合衆国、近代日本、人種・エスニシティ、社会階級、ジェンダー、人類学		
Web page			
E-mail	kawashimakohei■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	アジアのスポーツと身体文化	**教授**	**高嶋　航**
専門・専攻分野	スポーツ史、東洋史	学位	博士（文学）京都大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	アジアにおけるスポーツと身体文化を歴史学からアプローチする。私自身の研究テーマは、近代スポーツの東アジアへの伝播、東アジアにおけるスポーツの相互関係、帝国日本のスポーツ史である。大学院諸君には、スポーツ科学と歴史学の方法論を体得するとともに、幅広い視野からスポーツ・身体文化を批判的にとらえることを求めたい。		
Keywords	アジア、歴史学		
Web page			
E-mail	taka-shimako■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ国際開発学	**教授**	**岡田　千あき**
専門・専攻分野	スポーツ国際開発学、スポーツ社会学、生涯スポーツ学、コミュニティ開発	学位	博士（学術）神戸大学
研究指導	修士課程、 博士後期課程		
指導内容	貧困、紛争、格差、ジェンダーといった複雑な社会的課題が交錯する現場において、スポーツがいかなる価値を持ち、どのような役割を果たしうるのかを実証的に探究する。 既存の開発モデルを批判的に検証し、国内外のフィールド（アフリカ、アジア、日本等）における人々の「現場の知」を対話の起点とすることで、スポーツの多面的な社会的機能を捉え直す。具体的な研究テーマは、スポーツを通じた平和構築、社会的包摂（ホームレスワールドカップ）、ジェンダー・エンパワメント、多様な人々が共に生きる「コンヴィヴィアリティ（共生）」とウェルビーイングの創出などである。 大学院生には、自らの問題関心と「現場への想像力」を持ちながら事象を解明する論理的思考力を期待する。ゼミでの議論や分析手法の習得を通じて、理論と実践（現場）の往還から独自の知見を導き出す能力を身につけることを目指す。		
Keywords	開発と平和のためのスポーツ（SDP）、社会的包摂、平和構築、コンヴィヴィアリティ（共生）、ジェンダー、フィールドワーク		
Web page	https://sportdp.w.waseda.jp/		
E-mail	chiaki■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ哲学	**教授**	**佐々木　究**
専門・専攻分野	体育・スポーツ思想	学位	博士（体育科学）筑波大学
研究指導	修士課程		
指導内容	体育やスポーツに関して哲学的にアプローチする研究を指導する。 私自身の主たる研究テーマは、近現代における体育の思想史であり、近年はスポーツ概念論や倫理にも関心をもっている。学生諸君の研究テーマは、もちろんこれに制限される必要は無く、各自の興味・関心に応じた課題が設定されることを希望する。指導の方針としては、テクストを精緻に読解できるようになること、そして実証性のある論理を展開できるようになることを目指す。		
Keywords	近・現代体育思想史、遊戯論、スポーツ概念と倫理		
Web page			
E-mail	sasaki9■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

2．スポーツビジネス　研究領域

研究指導名	トップスポーツビジネス論	**教授**	**平田　竹男**
専門・専攻分野	経営学／スポーツクラブ、スポーツマーケティング、スポーツビジネス論	学位	工学博士（東京大学）
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	本研究指導では、将来のスポーツ界のトップリーダーに対して理論的支柱を与えることを目的とし、近年急速に進展を遂げるトップスポーツビジネスに関して、メディアの発展およびマネジメント手法の進化を踏まえ、スポーツクラブや競技団体、そしてスポーツメディア、スポーツに関する企業等の持つ課題に対する解決方法を究明する。日本サッカー協会専務理事としてなでしこジャパン創設やフットサルの普及をした経験、またＴリーグ、日本陸上競技連盟、東京マラソン財団などのスポーツ連盟理事としての経験等に基づき指導を行う。 具体的な研究課題： ・得点の起点となったプレーを伝えるサッカー中継 ・日本人サッカー選手の欧州ビッグクラブへのステップアップにおける課題 ・NBA アリーナのビジネスモデル ・大学ラグビーにおける選手獲得戦略 ・青山学院大学駅伝チームの箱根駅伝強化の軌跡 ・新たな相撲部屋の経営の在り方に関する研究 ・世界の柔道強豪国における国家的強化方針に関する研究 ・パワーハラスメント予防の観点からのスポーツ指導者の選手に対する怒りの発生要因とコントロール方法 ・スポーツ外交、資源外交、ソフトパワー論　など		
Keywords	スポーツクラブ、スポーツメディア、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、リーグ、マネジメント、エンターテイメント、地域、アジア		
Web page	http://www.waseda.jp/sem-hirata/		
E-mail	hirata2002■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ組織論	**教授**	**作野　誠一**
専門・専攻分野	体育・スポーツ経営学	学位	博士（学術）金沢大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	人とスポーツの関わりは、「する」「みる」にとどまらず、「ささえる」「知る」など多岐にわたる。そして、いずれの関わり方も何らかの組織を介していることが多い。本研究指導においては、多様な体育・スポーツ経営現象を把捉・説明する枠組みとしての組織論について理解を深め、これを基盤とする組織マネジメントの方法について考究する。さらに、各自の関心に基づき研究を進めるための基本的な知識ならびに調査・分析技法（量的／質的）の習得をめざす。研究テーマとしては、各種スポーツ組織のマネジメントについて、リーダーシップ、モチベーション、組織化（支援）、人材マネジメントなど、主にミクロ-メゾレベルの組織論の視点からこれを捉える。その他にもボランティアマネジメント、学校体育と地域スポーツの連携など、幅広いテーマについて指導している（詳細については HP を参照）。		
Keywords	スポーツ組織、地域スポーツ、スポーツクラブ、人材マネジメント、学校体育経営		
Web page	https://sakuno.w.waseda.jp/		
E-mail	sakuno■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツビジネスマーケティング	**教授**	**松岡　宏高**
専門・専攻分野	スポーツマネジメント、スポーツマーケティング、スポーツ消費者行動論	学位	Ph.D.（スポーツマネジメント） オハイオ州立大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	「見るスポーツ」を売るプロスポーツクラブ・球団や「するスポーツ」を売るスポーツクラブ・団体など、スポーツ組織のビジネスにおいてマーケティングは不可欠である。スポーツマーケティングには、スポーツを効率よくプロデュースして提供する「スポーツのマーケティング」と、企業がスポーツを利用してプロモーション活動を行う「スポーツによるマーケティング（＝スポーツスポンサーシップ）」があり、それぞれスポーツ消費者（する人や見る人）の理解が最優先の課題となる。本研究指導では、主にスポーツ消費者の心理や行動の理解に焦点を当て、その解明に必要な科学的な研究手法を身につけることを目的とする。具体的な研究テーマとしては、スポーツファン・観戦者の動機とチームへの愛着、スポーツ消費者のサービス評価と満足、プロスポーツ球団・クラブのプロモーションの効果、そしてスポーツスポンサーシップの効果などがある。		
Keywords	スポーツビジネス、スポーツマーケティング、スポーツ消費者、スポーツスポンサーシップ		
Web page			
E-mail	matsuoka-hiro■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツビジネス法	**教授**	**松本　泰介**
専門・専攻分野	スポーツ法	学位	
研究指導	修士課程		
指導内容	スポーツ界の現場において、スポーツ仲裁やスポーツガバナンスの観点からの要請が強くなり、代表選考の場面、アンチ・ドーピングや暴力・セクハラ問題などのインテグリティの場面、スポーツ関係者への懲戒処分の場面、スポーツ仲裁の場面など、スポーツ法を意識しなければならない場面が非常に増えている。このようなホットトピックに関する実践的な研究を指導する。		
Keywords			
Web page			
E-mail	taisukematsumoto■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ＆エンターテイメントマネジメント	**教授**	**佐藤　晋太郎**
専門・専攻分野	マーケティング、マネジメント、消費者行動論	学位	Ph.D. (Sport　Management), フロリダ大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ、音楽、イベントなどのエンターテインメントがもたらす「楽しい」とか「幸せ」などの快楽的便益は、あらゆる場面で活用することができる。人は楽しい経験をもたらす製品やサービスにお金や時間を費やすし、楽しいことが起きている場所には人が集まり街が活性化する。本研究指導では、主にマーケティング、マネジメント、消費者行動の側面から、(1)スポーツをはじめとするエンターテインメントの価値を科学的に解明するための能力と、(2)エビデンスに基づいた、人・企業・社会へのスポーツ＆エンターテインメントの活用方法を模索・提案できる能力の開発を目指す。大学院生には、自らの研究テーマを設定するとともに、研究室のプロジェクトにも積極的に関わり、国際学会での発表ならびに国際誌への論文投稿 を強く期待する。		
Keywords	スポーツ、音楽、観光、アート、イベント、ウェルビーイング		
Web page	https://fulllifelab.wordpress.com/		
E-mail	satoshintaro■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツプロモーション論	**教授**	**髙橋　義雄**
専門・専攻分野	スポーツプロモーション、スポーツ政策学、スポーツ行政	学位	博士(スポーツウエルネス学) 筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツは、暇や退屈の時間を幸せに過ごすための活動として普及した文化である。こうした文化は、社会環境や社会・文化的な制度に制約された空間や時間で展開される。そこで、本研究指導では、スポーツに関連する政策、行政、政治・経済などを人文・社会科学的手法によって分析する力をみにつけることをめざす。大学院生は、社会課題に関心をもち、スポーツとの関係を論理的な思考で結び付け、スポーツをプロモートするだけではなく、スポーツによる社会課題の解決策を提案。実行する意欲と実行力を求める。		
Keywords	政策過程、行政学、スポーツプロモーション、スポーツ社会学		
Web page			
E-mail	takahashi.yoshio■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ経営戦略	**准教授**	**大井　義洋**
専門・専攻分野	スポーツ経営戦略、スポーツビジネス	学位	博士(経営管理) 中央大学
研究指導	修士課程		
指導内容	「スポーツビジネスのリアル」を肌で感じながら、理論と実務の間をダイナミックに行き来する実践的な学びを提供し、スポーツビジネスの世界に経営戦略の視点を携え、複雑かつダイナミックに変化するスポーツビジネスの現在を深く掘り下げる。 25 年間にわたるスポーツビジネスの実務経験を基に、国内外のプロスポーツリーグや競技団体の経営戦略を中心に、アスリートのキャリアを支えるビジネスモデル、メディアやスポンサーシップを通じた価値創造の仕組み、国際スポーツイベントがもたらす経済的・社会的インパクト、さらにデジタルメディアの革新やファンエンゲージメント戦略といった最前線のテーマを、多角的かつ戦略的に掘り下げていく。単なる知識の習得にとどまらず、スポーツが社会にもたらす本質的な価値とは何かという問題に向き合いながら、自らの視点で考え、語り、行動できる力を養う。		
Keywords	スポーツ経営戦略、スポーツビジネス、スポーツ共創価値、スポーツコミュニケーション		
Web page			
E-mail	y.oi■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

3．スポーツ医科学　研究領域

研究指導名	健康行動科学	**教授**	**岡　浩一朗**
専門・専攻分野	健康行動科学、行動疫学	学位	博士（人間科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	職域や自治体、病院、学校など、様々な現場と連携して、生活習慣改善、特に身体活動・運動の習慣化や座位行動の是正（座りすぎ対策） に関する取り組みについて研究指導を行う。具体的には、①環境整備や行動理論を駆使した勤労者の生活習慣（身体活動、座位行動）改善プログラムの開発・評価、②メディア分析を通じた健康情報の効果的な普及戦略の開発に関する研究、③介護予防・フレイル対策（運動器の機能向上、認知症予防など）に資する研究、④膝痛・腰痛高齢者の痛み自己管理への認知行動療法の応用、⑤スポーツ・野外活動を通じた子ども・青少年の非認知能力向上策に関する研究、⑥アスリートにおける心身の健康問題への心理的支援に関する研究などである。健康経営、地域保健や介護福祉、医療・看護・リハビリテーション、学校教育、スポーツ指導などの現場における社会課題を解決するための行動科学的アプローチの視点や具体的方法について学び、その研究開発・社会実装の推進を目指す。		
Keywords	座りすぎ、身体活動不足、 行動変容、行動経済学、ヘルスコミュニケーション、がん予防、犬の散歩、心血管代謝疾患、運動器疾患、認知行動療法、メンタルヘルス、非認知能力、身体活動支援環境、ソーシャルキャピタル		
Web page	https://www.koka.tokyo/		
E-mail	koka■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ整形外科学	**教授**	**金岡　恒治**
専門・専攻分野	スポーツ医学/整形外科、バイオメカニクス	学位	博士（医学）筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ活動の動作解析や筋活動解析を通して理想的身体機能を探求し、同時にスポーツ障害発生に関わる身体機能不全を明らかにしていく。また推定された身体機能不全を改善するための介入研究を行い、その効果を検証し、障害予防対策を考案していく。ここで得られた機能改善介入はアスリートのパフォーマンス向上方法にも繋がることが期待され、さらには腰痛をはじめとした様々な整形外科的疾患の運動療法開発にも繋がる。		
Keywords	身体機能、障害予防、運動療法、パフォーマンス向上		
Web page			
E-mail	kaneoka■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	予防医学	**教授**	**鈴木　克彦**
専門・専攻分野	応用生理学、内科学、免疫学	学位	博士（医学）弘前大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	激しい運動や過酷なトレーニングなどの身体的ストレスによる内科的障害の評価、病態機序の解析、および栄養、サプリメント、水分補給、休養、各種補完代替医療等による予防策の科学的根拠について研究する。具体的には、運動を中心とした生体のストレス応答と適応のメカニズムについて、特に生体防御（白血球機能、ホルモン・サイトカインの動態、活性酸素の代謝、筋損傷と修復）の面から研究している。また、適度な運動による生活習慣病の予防・治療と作用機序に関する検討、ストレス応答や免疫機能の解析・評価法の開発、臨床病院との連携による免疫低下、炎症、老化の制御に関する基礎的・応用的検討を進めている。研究内容については初学者で構わないが、生物化学系実験の経験と統計処理、英文読解能力は研究遂行上必須である。複数の研究プロジェクトに関わりながら、自らのテーマを設定し、研究を計画・実行し、学会発表、論文作成を進められるように指導する。		
Keywords	運動、ストレス、白血球、活性酸素、ホルモン、サイトカイン、炎症、老化、生活習慣病		
Web page	http://www.f.waseda.jp/katsu.suzu/		
E-mail	katsu.suzu■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	アスレティックトレーニング	**教授**	**広瀬　統一**
専門・専攻分野	アスレティックトレーニング、コンディショニング、スポーツ傷害予防、タレントの識別および育成、スポーツおよび運動場面における人間行動と協調（身体部位間および個人・集団間）	学位	博士（学術）東京大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	エビデンスに基づくアスレティックトレーニング研究の科目では、エビデンスに基づく実践（Evidence-Based Practice：EBP）を基盤として、アスレティックトレーニング分野における研究プロセスおよび理論構築を学ぶ。本科目は、従来の傷害予防やリハビリテーションに主眼を置いたアプローチにとどまらず、運動やスポーツを通じて生じる人間の行動、相互作用、ならびに身体部位間・個人内・個人間・集団間における協調構造を理解し説明するための科学的枠組みとして、アスレティックトレーニング研究を位置づける。 本講義では、スポーツ傷害の予防およびリコンディショニング（回復・再調整）に関する研究に加え、ストレングスおよびコンディショニング研究を扱う。特に、身体部位間の協調（例：上下肢、体幹と四肢）を含む運動制御、集団や組織における協調行動の定量的分析、神経筋的およびバイオメカニクス的制御、ならびにスポーツ・運動・トレーニング環境における社会的相互作用の測定に重点を置く。		
Keywords	アスレティックトレーニング、スポーツ傷害予防、コンディショニング、人間行動、身体部位間および集団における協調、パフォーマンス		
Web page	http://hirose-labo.jimdo.com/		
E-mail	toitsu_hirose■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	筋生物学	**教授**	**秋本　崇之**
専門・専攻分野	筋生物学、メカノバイオロジー	学位	博士（医学）筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	ヒト、マウス、細胞等をモデルとして、メカニカルストレスによる組織の可塑性メカニズムに関して研究する。現在の研究室の主な研究テーマとしては、(1)メカニカルストレスによる骨格筋組織の可塑性メカニズム、(2)骨格筋がメカニカルストレスを受容するメカニズム、(3)運動によるヘルス・ベネフィット発現のメカニズム、(4)骨格筋組織の生体外構築技術の開発等である。大学院生に対しては、これらのうちいくつかの研究プロジェクトに関わりながら、自らが主体的に推進するテーマを設定し、実験を進め、データをまとめ、成果を発表し、論文を執筆し、研究費を獲得できる、自律的な研究者となるための素養を身につけられるよう指導する。		
Keywords	分子細胞生物学、逆遺伝学（マウス）、バイオテクノロジー、転写制御、転写後制御、ビジョン、ハードワーク、チームワーク		
Web page			
E-mail	axi■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	運動代謝学	**教授**	**宮下　政司**
専門・専攻分野	運動代謝学、運動栄養学、食行動科学	学位	Ph.D., Loughborough University, United Kingdom
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	若年者から高齢者までを対象に、身体活動実践や栄養改善による生活習慣病予防の評価と機序究明の両側面から研究を進める。また、アスリートのパフォーマンスやコンディショニングという観点でも研究を進める。具体的には、①身体活動・食事介入による動脈硬化症予防に関する研究、②身体活動・咀嚼と食欲に関する基礎（調節機構の解明）研究・応用（食行動）研究、③食品と運動パフォーマンス・疲労に関する研究、④コンディショニングに関する生理学的研究などを研究する。さらに、国際共同研究および産学連携事業を通して広い視座で挑戦的に協働して取り組める能力を身につけることで将来、国際的に活躍できる研究者の育成に力を注いでいる。「インパクトのある研究からより良い健康づくりへ」を研究室の目標とし、得られた研究成果を社会・国民に対し広く還元していけるように支援する。		
Keywords	食後代謝、食欲、運動パフォーマンス、生活習慣病予防		
Web page	https://miyashita.w.waseda.jp/index.html		
E-mail	m.miyashita■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	運動器スポーツ機能解剖学	**教授**	**熊井　司**
専門・専攻分野	スポーツ医学、機能解剖学、足の外科学、ダンスの医学、自転車の医科学	学位	博士（医学） 奈良県立医科大
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ選手にとって、運動器に発生する外傷・障害はパフォーマンス低下を引き起こすだけでなく、キャリアエンディングにも関わる重要な課題となる。運動器のスポーツ機能解剖学的観点から病態を把握し、治療・予防法を考案、実施するための手法を確立するための指導を行う。 主として病態解明のための機能解剖学的手法（屍体標本を用いた形態学的研究を含む）、バイオメカニクスによる手法、生体での超音波画像解析による手法などを用い、アスリートの障害治療および予防への提案となる研究を行う。		
Keywords	機能解剖学、オーバーユース障害、低侵襲治療法、腱付着部症		
Web page	https://prj-kumai-waseda.w.waseda.jp/		
E-mail	kumakumat■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	健康教育学	**教授**	**石井　香織**
専門・専攻分野	発育発達学、健康教育学	学位	東京医科大学 大学院医学研究科修了
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	生涯にわたり心身の健康を維持・増進していくことは、国をあげ対策を講じている重要な課題のひとつである。そのため、健康的な生活習慣を獲得するための効果的な方策を構築することが急務となっている。健康的な生活習慣を獲得するためには、人々が行っている健康行動の身体的・心理的健康への影響やその実態を把握し、健康行動に関連する要因を明らかにし、アプローチ方法を構築し働きかけを行うことが求められる。本研究指導では、健康教育学分野における健康づくり(特に身体活動・座位行動)に関する研究について指導を行う。 主な研究のテーマは、健康教育学の諸理論を応用し、子どもから高齢者までの各ライフステージにおける身体活動の推進および座位行動の減少に関連する要因の解明やその支援方法の構築などを取り上げる。健康づくりが社会において求められている課題を理解し、その解決方法を科学的に特定するとともに、健康教育の現場において活用可能な具体的な手法の獲得を目指す。		
Keywords	健康行動、発育発達、行動科学		
Web page			
E-mail	ishiikaori■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ神経精神医科学	**教授**	**西多　昌規**
専門・専攻分野	睡眠医学、精神医学、精神生理学、睡眠・生体リズム	学位	博士(医学) 東京医科歯科大学 (現:東京科学大学)
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	睡眠は、心身ともに健康な生活を維持するだけでなく、スポーツにおけるコンディショニングにも重要生活習慣である。当研究室では、運動と睡眠・生体リズム、精神・脳機能について、生理学的な研究を行っている。アスリートのパフォーマンス向上やコンディショニング、メンタルサポートに役立つ研究も行う。テーマとして、①睡眠や日中の眠気が身体運動に与える影響についての研究　②身体運動、スポーツが睡眠や日中の眠気に与える影響　③生体リズムやソーシャルジェットラグ(社会的時差ボケ)とスポーツ(アスリート)との関連性　などが挙げられる。当研究室で行っている企業との共同研究にも積極的に関与する学生を期待する。日本語を母国語としない者については、実験参加者とのコミュニケーションが重要となるため、当研究室では日本語検定一級に加え、日本語会話コミュニケーション・ディスカッション能力を重視する。		
Keywords	身体運動、睡眠・生体リズム、睡眠医学、精神医学、メンタルヘルス		
Web page	https://nishida.w.waseda.jp/		
E-mail	nishida■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ疫学	**教授**	**澤田　亨**
専門・専攻分野	スポーツ疫学・公衆衛生学	学位	博士(医学)　順天堂大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ疫学は、「疫学的研究手法」を駆使して、スポーツや健康に関する問題や課題を解決するための科学的根拠(エビデンス)を提供する学問である。それぞれの課程において、以下の事柄に関する支援を行う。 修士課程:　1) 研究テーマを適切に設定する、2) 研究テーマの背景や社会的意義に関する論文や研究テーマに関連する論文を検索する、3) 検索した論文を批判的に吟味する、4) 研究テーマに対する解答を導き出すための適切な研究デザインを構築する、5) 研究を実施する、6) 得られたデータを適切に解析する、7) 結果を適切に解釈する、8) 修士論文を執筆する。これらの過程を通じ、「エビデンスを活用して社会に貢献する専門家になる」、あるいは「博士後期課程に進むための基礎能力を築く」支援を行う。 博士後期課程:　1) 社会が解決を望んでいる問題を解決に導く研究テーマを設定する、2) 研究テーマを解決するための質の高い研究デザインを構築する、3) 適切な研究調査法を選択・実施し、得られた結果を適切に解析・解釈する、4) 国際的に著名な研究者と協力しながら質の高い論文を作成する。これらの過程を通じて「身体活動やスポーツに関連する社会の問題の解決にグローバルに取り組む能力を醸成する」ための支援を行う。		
Keywords	公衆衛生学、ヘルスプロモーション、身体活動、体力、生物統計学		
Web page	https://sites.google.com/site/sssawadalab/home		
E-mail	s-sawada■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	アスレティックパフォーマンス	**准教授**	**平山　邦明**
専門・専攻分野	ストレングス＆コンディショニング、トレーニング科学、コンディショニング科学	学位	博士（スポーツ科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	【指導目標】アスリートを中心とした対象者のパフォーマンス向上と外傷・障害予防に資することのできる人材の育成に取り組んでいる。具体的には、エビデンスやテクノロジーを活用してアスリートを現場でサポートするストレングス＆コンディショニングコーチやアスレティックトレーナー、科学的知見やデータを提供して現場を支える研究者やスポーツサイエンティストである。 【主な研究テーマ】(1)アスレティックパフォーマンスの個人差の要因の解明、(2)コンディショニングやトレーニング手法の生理学的・バイオメカニクス的分析、(3)コンディショニングやトレーニング手法の開発と効果検証などを中心に、アスレティックパフォーマンスの向上に必要な知見について幅広く研究している。主な対象はアスリートだが、その知見を幅広い年代のスポーツ愛好者や一般の方にも応用していきたい。 【指導方針】スポーツ現場の課題を科学で解決することを目指しているため、将来ストレングス＆コンディショニングコーチやアスレティックトレーナーを目指す学生はもちろん、研究者を志す学生もスポーツ現場に出ていき、課題解決の過程で得た知見を国際誌に投稿することを推奨している。		
Keywords	筋力・パワー、スプリント・アジリティ、エンデュランス、外傷・障害予防		
Web page	https://www.waseda-athleticperformance-lab.jp/		
E-mail	k.hirayama■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	環境運動生理学研究	**准教授**	**細川　由梨**
専門・専攻分野	アスレティック・トレーニング、スポーツセーフティ、環境運動生理学	学位	博士（運動生理学） コネチカット大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	暑熱環境下における運動生理学および労作性熱中症の病因学を、スポーツ科学、疫学、生気象学、公衆衛生学などと結びつけることで多面的に分析し、エビデンスに基づいた労作性熱中症の治療や予防方法について研究・発信している。労作性熱中症に限らず、その他の労作性疾患のプレホスピタルケアについても、大会医療をモデルに研究している。 また、スポーツ現場で培われたアスレティック・トレーニングやスポーツ医科学の知識を労働現場に応用し、労働現場の安全と労働者のパフォーマンス向上を目指した研究も進めている。 現在進められている主な研究とテーマには、(1)スポーツ外傷・障害調査、(2)スポーツ関連突然死の予防を題材とした Evidence-based Policy Making、(3)タクティカルアスリート向けの暑熱馴化プログラムの立案、(4)労作性熱射病プレホスピタルケアの確立、(5)アスリートにおける暑熱耐性の評価などが挙げられる。		
Keywords	労作性熱中症、暑熱耐性、スポーツセーフティ、プレホスピタルケア、大会医療、スポーツ関連突然死		
Web page	https://prj-spo.w.waseda.jp/spo/		
E-mail	yurihosokawa■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ生化学・遺伝学	**准教授**	**谷澤　薫平**
専門・専攻分野	運動生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学	学位	博士（スポーツ科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ生化学・遺伝学研究室では、身体活動や食事などの生活習慣が身体に及ぼす影響とそのメカニズムについて、生理学、生化学、疫学、遺伝学など多様な分野からアプローチして研究を進めている。特に、身体活動や食事に対する身体の応答・適応の個人差に着目しており、これらの個人差を生み出す要因の解明を通じて、個人差を考慮した健康づくりや、個人差を考慮したアスリートのトレーニング・コンディショニング法などの確立を目指している。現在取り組んでいる主なテーマとしては、①身体活動・食事に対する応答・適応の個人差とその規定要因の解明、②体力・運動能力の個人差を規定する遺伝的要因の解明、③ゲノム情報や腸内細菌情報を活用した個別化運動・栄養処方の提案、④身体活動・食事による疾病予防のメカニズム解明などが挙げられる。本研究指導では、ヒトを対象とした生化学・遺伝学の研究手法や、研究テーマ・研究計画の立案および論文執筆までの一連のプロセスを、学生が主体的に習得できるように支援する。博士後期課程の学生には、在学中に複数の論文を質の高い国際誌に掲載できるように支援する。		
Keywords	ゲノム、遺伝子バリアント、SNP、腸内細菌叢、オミックス、個人差、個別化、身体活動、栄養、生活習慣、体力、生体リズム、健康		
Web page	https://sites.google.com/view/ktanisawa-lab		
E-mail	tanisawa■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ生理学	**教授**	**前田　清司**
専門・専攻分野	スポーツ生理学	学位	博士（体育科学）筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツ生理学では、主に以下の 2 つのテーマに関連した研究の指導を行う。(1) 定期的な運動、食生活改善、睡眠が身体に与える影響とその機序に関する研究：子供から高齢者、さらには肥満者などを対象として、定期的な運動、身体活動の増加、座位行動の是正、食習慣改善、睡眠などの生活習慣が心血管疾患をはじめとする生活習慣病、認知症、更年期症状などの発症や予防に与える影響を検討するとともに、その機序についても生理・生化学的アプローチにより検討する。(2) 競技スポーツにおけるコンディショニングおよび臓器適応に関する研究：アスリートが競技力を向上させるためのコンディショニングについて、睡眠（仮眠も含む）、月経周期、認知機能、免疫機能、機能性食品摂取などの観点から検討する。また、スポーツを継続することで生じる臓器（心臓、血管、腎臓など）の適応（スポーツ心臓、スポーツ血管、スポーツ腎臓など）について生理・生化学的観点から検討する。これらの研究で得られた成果は、学術界だけでなく、スポーツや健康の現場に広く発信・還元することを目指す。修士課程では国内外のスポーツや健康の現場でリーダーとなる高度専門職業人などの育成、博士後期課程では国内外のスポーツ科学分野で活躍できる自立した大学教員や研究者などの育成を目標として指導する。		
Keywords	健康支援、運動、食生活改善、睡眠、動脈硬化度、認知機能、更年期症状、アスリート支援、競技スポーツ、コンディショニング、運動パフォーマンス、臓器適応		
Web page			
E-mail	seiji.maeda■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	応用生理学	**教授**	**宮地　元彦**
専門・専攻分野	運動生理学、健康・スポーツ科学	学位	博士（体育科学）
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	応用生理学研究室では、スポーツや運動と食事による身体適応のメカニズムを解明するとともに、体力向上や健康増進のための新たな手法を考案する研究を行っている。大学院での研究指導では、健康寿命の延伸や体力向上のための身体活動と食事の相互作用を明らかにするための生理学や疫学の研究手法やその論文化、研究成果の社会実装の手続き等を習得するため知識の供与や実践の機会を提供するなどの支援を行う。特に博士課程の学生には、研究資金の獲得や倫理審査申請といった研究準備、安全かつ効率的な実験・調査の実施、研究結果の公正な公表・公開などの研究遂行のマネジメントに関する知識と経験を取得し、学術論文の公表、知的財産の創出を目指して頂く。具体的には、①トレーニングの種類と呼吸・循環・代謝の適応、②生活習慣病やサルコペニア・フレイルを予防する身体活動と食生活、③体力や身体活動の評価法の開発と標準化、④マイクロバイオーム（腸内細菌叢などの共生細菌叢）と生活習慣といったテーマを基本としつつ、それぞれの受講生の希望する研究テーマでの研究実践を支援する。		
Keywords	生理学、疫学、トレーニング、適応、体力、マイクロバイオーム、生活習慣、食生活		
Web page	https://w-rdb.waseda.jp/html/100002864_ja.html		
E-mail	miyachim■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	ハイパフォーマンス科学	**教授**	**宮本　直和**
専門・専攻分野	トレーニング科学、ハイパフォーマンス科学、バイオメカニクス、運動生理学	学位	博士（人間・環境学） 京都大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	「スポーツ現場で活用できる知見の創出」を念頭に、骨格筋および腱のサイズ（量）・構造、質・機能、使い方、疲労・損傷状態など、さまざまな側面から研究を行っている。現在の主な研究テーマは、(1)アスリートの競技パフォーマンス向上を目的とした効果的かつ実践的なコンディショニング・トレーニング法の構築・検証、(2)肉離れをはじめとするスポーツ外傷・障害の新規受傷リスクの同定および受傷メカニズムの解明、(3)スポーツ外傷・障害の予防を目的としたコンディショニング・トレーニング法の開発・検証である。加えて、子どもや高齢者における筋および腱の特性、筋力・パワーの加齢変化に関する研究も実施している。大学院生には、これらの研究プロジェクトのいずれかに参画しつつ、自ら主体的に研究テーマを設定し、実験（データ収集・解析）および成果発表（学会発表・論文執筆）を通じて、研究者として必要な素養を身につけられるよう指導・支援している。		
Keywords	筋・腱、筋力・パワー、パフォーマンス向上、外傷・障害予防		
Web page	https://www.miyamotolab.net/		
E-mail	n.miyamoto■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	パラスポーツ科学	**准教授**	**前田　慶明**
専門・専攻分野	パラスポーツ科学、スポーツリハビリテーション	学位	博士（保健学） 神戸大学
研究指導	修士課程		
指導内容	パラスポーツ科学では、パラスポーツに関わる人々のパフォーマンス向上や傷害予防を含めたエビデンス構築、パラアスリートのパフォーマンス向上、および障がい者スポーツ特有の医科学的サポート体制の構築を目指し、生体計測と競技・生活現場での調査を両立させ、理論と実践を融合させた研究の指導を行う。まずは、基礎的な研究手法（実験デザイン、データ収集・解析）を習得し、自ら設定した課題に対して科学的根拠に基づいた解決策を提示できる高度専門職業人を育成し、次世代のパラスポーツ科学を担う自立した研究者・教育者の養成するための支援を行う。研究室のプロジェクトに参画しながら、学生一人ひとりの関心に合わせた主体的な研究活動を支援し、学術的な成果を広く社会へ還元できる素養を身につけられるよう指導する。		
Keywords	パラスポーツ、パフォーマンス向上、外傷・障害予防、理学療法		
Web page			
E-mail	norimmi■waseda.jp ※メール送信の際には■を@に変更してください。		

４． 身体運動科学 研究領域

研究指導名	生体ダイナミクス	**教授**	**川上　泰雄**
専門・専攻分野	運動生理学／バイオメカニクス／ 機能解剖学	学位	博士(教育学)東京大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	人間を対象として、身体運動の発生源である骨格筋の形態的・機能的特性を探求する。人体筋の可視化および収縮の定量化に関して、超音波法や MRI 法などの画像解析、筋力計や筋電図、近赤外分光法、3 次元人体形状計測法などを用い、生体信号解析を駆使しつつ研究を進める。収縮中の骨格筋のダイナミックなふるまいの理解を通して、スポーツ・身体運動のパフォーマンスの規定因子を探る。さらに、トレーニング、身体不活動、成長、加齢、疲労などによって身体や筋に生じる変化について、縦断的・横断的に検討を加える。現在、以下の 5 つのテーマを柱とした研究が進行中である。1)骨格筋メカニクスの解析を通じた関節パフォーマンスや障害・外傷発生のメカニズム、2)筋・腱・筋膜特性の個人差と適応性、3)子どもの身体能力の発達、4)中高齢者の健康増進方策の開発、5)スポーツパフォーマンス(歩・走・跳・投といった基本運動やラグビー等の複合運動)の規定因子の解明とパフォーマンス向上のためのギア(ウエア・シューズ等)の開発。海外からのスタッフや留学生が多く、海外機関との共同研究も進めているため、研究室内のコミュニケーションは英語が中心となる。		
Keywords	筋線維、腱組織、筋膜(Fascia)、超音波、MRI、組織画像解析、生体信号解析、生体計測、スポーツパフォーマンス、ラグビー、成長、加齢、個人差		
Web page	https://sites.google.com/view/waseda-biodynamics-lab/ https://www.instagram.com/kawakami_lab_waseda/ https://www.miraikan.jst.go.jp/research/facilities/HumanMovementPerformance/(日本科学未来館研究エリア川上プロジェクト)		
E-mail	ykawa■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ心理学	**教授**	**正木　宏明**
専門・専攻分野	スポーツ心理学、運動心理学、認知神経科学、精神生理学	学位	博士(人間科学) 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	本研究指導では、人間と環境との相互作用を重視する心理学的アプローチに主眼を置きながら、認知神経科学の手法を適用することで、動作スキル獲得の背景メカニズムやアスリートの「あがり」防止等について研究する。スポーツでは、視覚情報を瞬時に認知し、適切な行動を選択し、それを正確に実行する必要性に迫られる。実際の動作が目標動作から逸脱すれば、脳はそれをエラーとして検出し、評価・修正することで、より洗練された動作をつくりだしていく。こうした脳内情報処理について、高時間分解能の脳波と高空間分解能の fMRI を併用して調べる。同様の手法を用いて、運動が認知機能に及ぼす影響についても検証する。エリートアスリートであっても、プレッシャー下でパフォーマンスを低下させてしまうことがある(あがり)。あがり対策として、注視行動に着目したトレーニング(Quiet Eye training)や脳活動の偏側性に着目した対処法の有効性について実験的に検証する。		
Keywords	脳波、fMRI、運動学習、パフォーマンスモニタリング、あがり、Quiet Eye		
Web page	https://sites.google.com/view/masakilab/home		
E-mail	masaki■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	統合運動神経生理学	**教授**	**宝田　雄大**
専門・専攻分野	生物・生命科学／神経科学、生理学	学位	博士（学術）東京大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	本研究室では、最大随意筋力（MVC）と努力感を規定する神経機構を、末梢求心性入力、一次運動野（M1）の抑制動態、高次運動野の補償、認知・動機づけシステム（報酬系・LC-NA 系）などが階層的に統合されるプロセスとして捉え、そのメカニズムと応用可能性を探究する。血流制限下運動（BFR）は、努力感の歪みと perception-action coupling の変容を明瞭化する実験モデルとして位置づけ、急性の知覚変容が慢性的な神経筋適応へ蓄積する過程も検証する。さらに、無自覚的動機づけ、報酬系・瞳孔反応、shouting などの行動介入が M1 抑制を低減し MVC を増大させる神経基盤を明らかにし、リハビリテーション、高齢者の安全な筋肥大、アスリートのパフォーマンス向上への応用を目指す。大学院生には、生理学・神経科学・運動制御・心理学を統合し、独自の研究課題を構築する能力の育成を求める。瞳孔測定、TMS、fMRI、H 反射、EMG などの神経生理学的手法に関する基礎的理解や経験が望ましい。専門領域外のテーマは指導対象としない。		
Keywords	動機づけ、報酬系、瞳孔測定、経頭蓋磁気刺激法、fMRI、上肢 H 反射測定、運動システム、努力感、最大随意筋力、筋肥大、レジスタンストレーニング等		
Web page	https://scholar.google.co.jp/citations?user=8JwZqCIAAAAJ&hl=ja		
E-mail	takarada■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	バイオメカニクス	**教授**	**矢内　利政**
専門・専攻分野	バイオメカニクス／スポーツ傷害・パフォーマンス分析	学位	PhD.　University of Iowa
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	バイオメカニクス研究室ではスポーツパフォーマンスにおける「力」と「運動」との関係に焦点を当て、①スポーツにおける身体運動の『からくり』を探る基礎的研究、②スポーツ傷害のメカニズムやリハビリテーションの効果を分析する臨床的研究を進めている．様々な競技の中で特に投・打・泳の分析に力を入れており、スポーツ現場における技術指導を科学の視点でサポートする活動も並行して行っている。ハイレベルな選手が長年培って獲得したフォームは個性的な場合もあるが、 力学的な視点で捉えるとこれらの選手には共通した特徴が見られるため、その動作を考える上での理想像はこれら共通項に隠されていると考えられる。そのような理想像を科学の視点で追究することにより、競技力の向上と外傷・障害の予防を両立させるフォームを構成する因子を見つけ出すことができると確信している。		
Keywords	競技スポーツ、関節可動域、キネマティクス、筋骨格系傷害、 Newton 力学		
Web page	http://www.waseda.jp/sem-yanai/index.html		
E-mail	tyanai■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツ栄養学	**教授**	**田口　素子**
専門・専攻分野	スポーツ科学／スポーツ栄養学	学位	博士(スポーツ科学) 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	アスリートのコンディショニングと競技力向上のために栄養摂取は重要である。本研究指導では、エネルギー代謝と身体組成、ウエイトコントロールと体づくりに関連する内容の調査・測定を行い、アスリートのエネルギー代謝と身体組成の変化に影響を及ぼす生理学的諸要因を探り、適切なエネルギーと栄養摂取方法及びアスリートの食事戦略について検討する。アスリートを対象とした横断研究のみでなく、食事介入研究も実施している。アスリートを対象にパフォーマンス向上とコンディショニング、エネルギー不足の早期発見と対策、及びスポーツ栄養マネジメントを行うにあたって役立つエビデンスの蓄積を目指しているが、その知見はジュニア層や健康維持・増進を目指す人々にも応用可能と考える。		
Keywords	エネルギー代謝、身体組成、栄養・食事管理、栄養学的コンディショニング		
Web page	https://sites.google.com/view/waseda-taguchi-lab		
E-mail	mtaguchi■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	運動生理学	**教授**	**林　直亨**
専門・専攻分野	運動生理学，生理学，応用生理学	学位	博士（医学）大阪大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	生理学的な研究を基盤として，循環系応答およびこれらと感覚情報との関連を中心に指導する。すなわち、運動自体やスポーツを支援するような手技（食事やマッサージ等）に伴う循環系の応答や、その調節メカニズムについて，ヒトを対象にした循環系の測定を通して明らかにする実験研究を扱う。修士課程では、自らの疑問を研究に落とし込み、研究を立案・実施することから、論文執筆までを主に指導する。博士後期課程では、修士課程の内容に加えて、学会発表や英語論文の発表を可能になるよう指導する。		
Keywords	末梢循環、眼底血流、脳血流、感覚、視覚、マッサージ		
Web page			
E-mail	naohayashi■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

５．コーチング科学 研究領域

研究指導名	走運動・コーチング科学	**教授**	**礒　繁雄**
専門・専攻分野	スポーツ科学／コーチング、走りの科学、障がい者スポーツ指導論	学位	
研究指導	修士課程		
指導内容	近年のスポーツは、科学的視点が導入され基本的動作や体力・心理等の解明によりコーチングの一般化は明らかにされつつある。しかし、トップアスリートに対しては、競技種目別や指導者の手法の違いにより、様々なコーチングが存在している。本研究指導では、トップアスリートを対象とした様々なコーチングを動作解析法や社会調査法等により、競技種目間に存在する、動作の共通性や特異性を解明する。特に「走り」に関しての解明は、中心的課題である。また、障がい者のトップアスリートに注目し、健常者との共有した競技力向上のコーチングについても注目している。		
Keywords	コーチング、陸上競技、動作解析、走りのモデリング、障がい者スポーツ		
Web page			
E-mail	iso■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	トップスポーツコーチング科学	**教授**	**奥野　景介**
専門・専攻分野	スポーツ科学／コーチ学	学位	
研究指導	修士課程		
指導内容	現代社会に機能する「コーチング」をスポーツ・教育の分野より科学的かつ技能的に捉え、競技に対するコーチングの現象について専門的に理解を深める。ハイパフォーマンス・スポーツを対象に、競技パフォーマンスがどのように獲得・発展していくのかを、コーチングの実践と理論の往還を通して探究する。特に、ハイパフォーマンスなアスリートやコーチの意思決定、トレーニング構築、競技戦略といった実践知を研究の中核に位置づけ、大学院生自身の競技経験やコーチング経験を起点として研究課題を構築する。 また、我が国において十分に体系化されていない各種スポーツのファウンデーション段階にも着目し、競技力発達の連続性および接続性を踏まえたコーチングの在り方を検討する。暗黙的な実践知を言語化・省察し、学術的に位置づけることで、スポーツの現場と研究を架橋できる高度なスポーツ実践専門家の育成を目指す。		
Keywords	実践知、ハイパフォーマンス、トップアスリート、コーチング科学、パフォーマンス評価		
Web page	http://www.f.waseda.jp/okunok/		
E-mail	okunok■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	スポーツコーチング学	**教授**	**土屋　純**
専門・専攻分野	スポーツ科学／スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動学	学位	博士（人間科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	スポーツパフォーマンスは技術面、戦術面、体力面、心理面などに細分化されて評価され、それぞれについて向上策が検討されることが一般的である。本研究指導ではこのうち特に技術面を取り扱い、スポーツ技術とその指導方法について、スポーツバイオメカニクスとスポーツ運動学の観点から解明する。主な研究課題は、1）スポーツ運動の質的把握、2）スポーツ運動のバイオメカニクス的分析、3）スポーツ技術のトレーニング方法の構築。		
Keywords	スポーツバイオメカニクス、スポーツ運動学、コーチング、スポーツ技術、競技力向上		
Web page			
E-mail	tsuchiya■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	コーチングとこころの科学	**教授**	**堀野　博幸**
専門・専攻分野	スポーツ科学／コーチング科学、スポーツ心理学	学位	博士（人間科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	「トップアスリートのトップパフォーマンス構築」と「育成年代の選手育成」に関するコーチングプロセスには、共通する要素が多い。本研究指導では、両者のコーチング現場で起こる種々の事象を、スポーツ科学の観点から解明し、コーチングの体系化と知見の実践的応用を目指す。加えて、スポーツフィールドとアカデミックフィールドの融合を図るため、両フィールドでの活動を積極的に行う。主な研究課題は、1）スポーツ心理学とコーチング、2）戦略・戦術分析、3）チームビルディングとチームマネジメント。		
Keywords	コーチング、戦略・戦術分析、スポーツ心理学、メンタルサポート、チームマネジメント		
Web page	http://www.f.waseda.jp/horino/indexj.htm		
E-mail	horino■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	トレーニング科学	**教授**	**岡田　純一**
専門・専攻分野	トレーニング科学／ストレングス＆コンディショニング	学位	博士(スポーツ科学) 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	競技者においてはパフォーマンス向上に関わる身体諸機能を高めるため、あるいは高齢者においても日常生活活動の改善のために筋力／筋機能を高めるなどトレーニングは広く一般的になっている。トレーニングの実際のプロセスは立案、実行、評価、修正を適切に行うことが大切である。すなわちプログラムの立案と管理／運用、その効果の測定および評価に関する、実践的研究を推進する。とくに、競技特性を考慮した筋力、パワー測定を中心にした身体パフォーマンスの評価やフィールドテストを活用していく。		
Keywords	レジスタンストレーニング、ウエイトリフティング、ジュニア・アスリート・高齢者の体力、コンディショニング、筋力、パワー		
Web page	https://sem-training.w.waseda.jp/		
E-mail	jun1okd■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	チームスポーツコーチング論	**教授**	**松井　泰二**
専門・専攻分野	スポーツ科学/コーチング学、ゲームアナリシス、バレーボール	学位	博士(コーチング学) 筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	チームスポーツにおける戦術は、単なる個人技術の集合体ではなく、複数人で構成されるシステムにより成立される。したがって、そのシステムを多面的な観点から捉え、科学的根拠に基づき構築しなければならない。また、チームスポーツにおけるパフォーマンスの結果は、多様な要素が絡み合っていることから、その構造は明らかにされていないことが多い。そこで、技術・戦術・戦略およびコーチングプログラムの構築を研究課題とする。主な研究課題は、1)チームスポーツにおけるゲームアナリシス研究、2)チームスポーツにおけるパフォーマンス研究、3)チームスポーツにおける(競技レベルに応じた)技術・戦術・戦略の研究、4)チームスポーツにおける効果的なコーチングプログラムの研究		
Keywords	コーチング、チームスポーツ、技術・戦術・戦略、バレーボール		
Web page			
E-mail	matsui■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	武道のコーチング学	**教授**	**射手矢　岬**
専門・専攻分野	スポーツ科学／コーチング学、体力トレーニング学	学位	博士(体育科学) 筑波大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	オリンピック競技である柔道は競技力向上のために体力、技術、戦術トレーニングが主に行われている。しかしながら、武道では伝統的な稽古の仕方も受け継がれている。特に武道では相手の力や技を利用することができる。また、武道特有の身体操作があり、これは他のスポーツや日常動作ではみられない。本研究指導では、武道特有の特殊な体力を測定したり、技の動作分析を行ったりして、トップアスリートや熟練者の強さや効率の良さを解明する。主な研究課題は、1)技術に関係する特殊筋力測定の開発、2)熟練者の技の解明、3)技術の指導法の構築などである。		
Keywords	格闘技、 武道、柔道、 コーチング		
Web page			
E-mail	iteya■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

研究指導名	冬季スポーツコーチング学	**准教授**	**藤田　善也**
専門・専攻分野	スポーツ科学／コーチング学、スポーツバイオメカニクス	学位	博士（スポーツ科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程、博士後期課程		
指導内容	近年では世界トップレベル選手を対象とした研究報告が増えており、競技現場においても科学的知見をもとにしたコーチングが行われてきている。また様々な科学サポートが選手の競技力向上のツールとして発展してきている。本研究指導では、冬季スポーツを対象に、競技を様々な側面から科学的に分析することで、競技力向上のための示唆を得ることを研究課題とする。主な研究課題は、冬季スポーツを対象とした1）各種技術のバイオメカニクス分析、2）選手の体力評価、3）競技力向上に関するツールの研究開発である。		
Keywords	冬季スポーツ、スポーツバイオメカニクス、体力評価、プログラミング、研究開発		
Web page			
E-mail	zenya.fujita■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

(2026/11/17 追加)

研究指導名	ハイパフォーマンス＆コーチング	**講師**	**欠畑　岳**
専門・専攻分野	スポーツ科学、コーチング学、スポーツ神経科学	学位	博士（スポーツ科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程		
指導内容	ハイパフォーマンス＆コーチング研究室では、アスリートを対象としたスポーツ運動中の動作解析や筋活動解析、その他ウェアラブルデバイス等で取得する生体信号解析の理解を通じて、アスリートのハイパフォーマンスの背景にあるメカニズムを定量的に記述・解明することを目指す。また、ここで得る定量的なデータ（形式知）は、アスリートやコーチなど、コーチング・トレーニング現場へ還元する必要がある。そこで、各々が取得するデータをどのように解釈しそれを他者へわかりやすく伝達（翻訳）すべきかという定性的（暗黙知）な文脈からもデータを扱うことができるよう支援する。このように形式知と暗黙知、両方の世界を往還できるスポーツ科学の実践者：“サイエンスインタープリター”の育成を目指した研究指導を展開する。 国際連携では、アジア圏を中心とした研究機関との連携を想定しており、必要に応じてフィールドワークやコーチング現場における実践を学ぶ機会を設け、ハイパフォーマンスとコーチングについての専門的理解を深める。		
Keywords	コーチング学、ハイパフォーマンス、陸上競技、スプリント走、神経科学、運動制御、筋活動、筋疲労、バイオメカニクス、動作解析、トレーニング、コンディショニング、サイエンスインタープリター		
Web page			
E-mail	kakehata■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

修士課程１年制コース

１．トップスポーツマネジメントコース

研究指導名	トップスポーツビジネス論	**教授**	**平田　竹男**
専門・専攻分野	経営学／スポーツクラブ、スポーツマーケティング、スポーツビジネス論	学位	工学博士（東京大学）
研究指導	修士課程１年制コース		
指導内容	本研究指導では、将来のスポーツ界のトップリーダーに対して理論的支柱を与えることを目的とし、近年急速に進展を遂げるトップスポーツビジネスに関して、メディアの発展およびマネジメント手法の進化を踏まえ、スポーツクラブや競技団体、そしてスポーツメディア、スポーツに関する企業等の持つ課題に対する解決方法を究明する。 日本サッカー協会専務理事としてなでしこジャパン創設やフットサルの普及をした経験、またＴリーグ、日本陸上競技連盟、東京マラソン財団などのスポーツ連盟理事としての経験等に基づき指導を行う。 具体的な研究課題： ・得点の起点となったプレーを伝えるサッカー中継 ・日本人サッカー選手の欧州ビッグクラブへのステップアップにおける課題 ・NBA アリーナのビジネスモデル ・大学ラグビーにおける選手獲得戦略 ・青山学院大学駅伝チームの箱根駅伝強化の軌跡 ・新たな相撲部屋の経営の在り方に関する研究 ・世界の柔道強豪国における国家的強化方針に関する研究 ・パワーハラスメント予防の観点からのスポーツ指導者の選手に対する怒りの発生要因とコントロール方法 ・スポーツ外交、資源外交、ソフトパワー論　など		
Keywords	スポーツクラブ、スポーツメディア、スポーツマーケティング、スポーツビジネス、スポーツマネジメント、リーグ、マネジメント、エンターテイメント、地域、アジア		
Web page	http://www.waseda.jp/sem-hirata/		
E-mail	hirata2002■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

2．スポーツクラブマネジメントコース

研究指導名	スポーツプロモーションマネジメント	**教授**	**髙橋　義雄**
専門・専攻分野	スポーツプロモーション、スポーツ政策論、スポーツマーケティング	学位	博士（スポーツウエルネス学）筑波大学
研究指導	修士課程 1 年制コース		
指導内容	本研究指導では、スポーツクラブ、スポーツ競技団体、スポーツ政策担当者として、スポーツを普及・推進するスポーツ事業の実務経験を有するものに対して、スポーツプロモーションのための理論と実務能力を高めて、より高度なスポーツ経営人材を育成することを目的とする。自らの経験知と比較しながら、スポーツイベントの公共政策や民間組織のマネジメントの基礎理論を学習する。これらの知識をもとに現場（フィールド）の課題を明確化し、その課題を解決するためのマネジメントを実践してデータを収集し、マネジメントの成果を修士論文にまとめる。 近年指導した研究課題は以下のようなものがある。 ・ミドル・シニア世代女性の集団スポーツ継続を規定する個人的要因と構造的要因に関する研究　～女子軟式野球選手を事例として～ ・商業型スポーツ施設におけるスポーツトレーナーの専門性マネジメント ・オリンピック競技採用が空手競技者の競技観に与える影響に関する研究－オリンピック種目決定後の全日本強化選手に着目して－ ・高校野球審判員の試合運営に関する研究－全国選手権大会と選抜大会を事例として－ ・サッカー・フットサル審判有資格者の離脱に関する研究 ・高等学校の運動部活動と地域との連携について―学校・行政・民間の連携形成過程に着目して― ・ラグビー新リーグ観戦者の観戦動機に関する研究 中央競技団体の継続収益に関する研究-会費・登録料・認定料を中心とした－考察－　など		
Keywords	スポーツキャリア、スポーツ継続、ドロップアウト、学校運動部、スポーツリーグ、スポーツクラブ、観戦者		
Web page			
E-mail	takahashi.yoshio■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

３．健康スポーツマネジメントコース

研究指導名	健康スポーツマネジメント	**教授**	**中村　好男**
専門・専攻分野	体力科学・スポーツ産業学／運動生理学・健康スポーツ論	学位	博士（教育学）東京大学
研究指導	修士課程 1 年制コース		
指導内容	本研究指導では、健康増進の実務経験を有する者に対して、運動やスポーツを中心とした健康増進活動の実践技能とそのマネジメント能力を開発することによって、社会的に要請される人材を育成することを目的とする。まず、身体行動科学ならびに社会マーケティングについての基礎理論を学習した上で、各々の関与する実務分野の状況に応じて、健康科学、栄養学、身体行動科学などの関連諸領域の基礎理論を学習する。それらの基礎知識を前提として、地域行政あるいは健康関連組織における健康増進のマネジメントを行う上での実務的・専門的能力を開発する。具体的には、地域自治体・フィットネス施設・老人福祉施設・職場等、各自が関わる現場（フィールド）において、スポーツ振興、健康増進ならびに高齢者生きがい支援システムを開発しその評価モデルを構築する。それらを実現・実施した上で、その成果を取りまとめて修士論文を提出するとともにしかるべき学術誌に投稿・刊行することを、本コースの到達目標とする。		
Keywords	健康、運動、栄養、高齢者、健康増進、行動科学、マネジメント、マーケティング		
Web page			
E-mail	nakamura■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

４．介護予防マネジメントコース

研究指導名	介護予防マネジメント	**教授**	**岡　浩一朗**
専門・専攻分野	健康行動科学・行動疫学・老年学／介護予防・ヘルスプロモーション	学位	博士（人間科学） 早稲田大学
研究指導	修士課程 1 年制コース		
指導内容	超高齢社会にある我が国における様々な課題の解決に向け、介護保険など社会保障制度の整備、改革が進められている。このような背景のもと、中高齢者の健康寿命の延伸を目指した生活習慣病予防、介護予防・フレイル対策に関する取り組みが注目され、その方法論の確立が急務となっている。特に、介護予防・フレイル対策が必要な対象者をどのようにして把握するのか、どのようなサービス(たとえば、運動器の向上や運動器疾患対策、認知症予防のためのプログラムなど)を提供していけばよいのか、介護予防・フレイル対策を効果的・効率的に普及させるためにはどのような戦略を立案していけば良いのかなどは非常に重要な研究テーマである。そのため、保健・医療・福祉あるいは運動・スポーツ指導の現場で中高齢者の健康づくりに携わる者が、修士論文をまとめる過程において、介護予防・フレイル対策に関わる諸理論および実践技能を学び、行政や関連組織において介護予防を推進していく上での実務的・専門的能力が高まるよう研究指導する。		
Keywords	アクティヴ・エイジング、虚弱高齢者、運動器疾患対策、行動変容、ヘルスコミュニケーション、健康経営		
Web page	http://www.f.waseda.jp/koka/index.html		
E-mail	koka■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

５．エリートコーチングコース

研究指導名	エリートコーチング研究指導	**教授** **教授** **教授** **教授** **教授** **教授** **教授** **准教授** **講師**	**（主担当）土屋　純** **（副担当）礒　繁雄** **（副担当）奥野　景介** **（副担当）堀野　博幸** **（副担当）岡田　純一** **（副担当）松井　泰二** **（副担当）射手矢　岬** **（副担当）藤田　善也** **（副担当）欠畑　岳**
専門・専攻分野	コーチング	学位	担当が複数いるため略
研究指導	修士課程１年制コース		
指導内容	オリンピックや世界選手権への出場といった高い競技力を獲得する過程で経験知や暗黙知、科学的視点を豊富に蓄積してきた優れたスポーツ選手および指導者に対して、そうした知識や視点を個人内に留めおくのではなく、研究論文といういわゆる「形式知」にまとめ、その情報を発信できる能力を養成し、さらに優れたスポーツ指導者となるための研究指導を行う。高いレベルのコーチングに関する研究論文を執筆でき、トップレベルのコーチングを高度な理論を背景に行える能力を習得することを到達目標とする。		
Keywords	コーチング、暗黙知、形式知、日本代表		
Web page			
E-mail	tsuchiya■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。 ※主担当にまずはご連絡ください。		

６．スポーツジャーナリズムコース

研究指導名	スポーツジャーナリズム	**教授**	**未定**
専門・専攻分野	スポーツジャーナリズム	学位	未定
研究指導	修士課程 1 年制コース		
指導内容	近年、ことに IT 革新の影響もあいまって、ジャーナリズムを取り巻く環境は大きく変化している。また、スポーツビジネスの進化やメガイベントの隆盛を踏まえたインテグリティに関する諸問題は、それらを伝えるメディアの役割も大きく変化させている。このような変化に対応するために、現場のジャーナリストにはスポーツ科学やスポーツビジネスの最新動向も含めた素養をアップデートすることが求められている。本研究指導では、現場のジャーナリストや、スポーツジャーナリストを志す有為な人々を対象として、スポーツ科学やスポーツビジネスの最新動向ならびにマネジメント技法の学習を通じてスポーツに関する知識や洞察法を開発することによって、スポーツの健全な発展と社会的要請に応えることのできる人材を育成することを目的とし、ジャーナリズムに関する実践力と探求能力の育成を図りつつ、スポーツあるいはスポーツビジネスに関わる諸問題を高度な教育・研究を通して解明し、スポーツ界の健全な発展に寄与し得る実務的・専門的能力を養成する。		
Keywords	スポーツ科学、スポーツビジネス、マネジメント、マスコミ、コミュニケーション、国際政治		
Web page			
E-mail	■waseda.jp　※メール送信の際には■を@に変更してください。		

以 上